地域密着型サービス事業者　自己評価表

（ ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 ）

事　業　者　名	グループホームオニオンコート（かっこう）	評 価 実 施 年 月 日	平成20年10月14日
評価実施構成員氏名	坂本悦子 ・ 木下真衣 ・ 林艶子 ・ 伊谷佳奈 ・ 村木弘子 ・ 長谷川直樹 ・ 澤山裕美 ・ 今野ヒサエ		
記　録　者　氏　名	藤田　まゆみ	記　録　年　月　日	平成20年10月14日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 1．理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	認知症であっても、共同生活を通じて家庭的な生活環境を提供し、利用者個々の能力に応じた日々の日常生活にて、地域住民の一員と自覚していただき、支援していけるよう努める。	○	今後も継続していきたい。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	基本理念の「もっと楽しく、もっと美味しく、もっと美しく」を日々支援の中で意識を深め、まだ十分ではないが色々な角度から見て、工夫をしながらこれからも提供していく。	○	日々、支援の中で意識できるよう、基本理念を月間目標等に記載している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族懇談会や施設内行事を通じ、日々施設の役割を示し、家族の要望をお聞きし、その都度説明を行っている。地域へは、イベント案内等を発行し理解を求める。	○	ホームのパンフレット等を見易い場所に設置し、自由に見ていただけるようにしている。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方とは出会いは少ないが、会った際は「こんにちは」等の挨拶をし、馴染みの関係を作っていくよう努めたい。	○	運営推進会議を通じ、地域住民の方々と馴染みの関係を持てるよう努力していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	幼稚園や小中学校との交流を積極的に取り入れ、体験見学等を通し、地元の人々との交流に努めている	○	近隣の小学校や幼稚園との交流の機会を今後も継続していきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	取り組んでいきたいが、具体的には行っていない。	○	職員間での話し合いや、地域の方々の要望等を取り入れて今後検討し、実施していきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員全体で書き込んでいる。評価表は常に見える所にあり、活用できるように努めている。	○	職員のみならず、訪問者、家族、入居者にも常に評価表を見ることが出来る様に、手の届く場所に保管し、評価表を活用できるように努めている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的な会議で、各立場の方々のご意見をサービス向上に活かす様心掛けている。	○	今後も継続していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	これからも市町内会へアプローチしていきたい。	○	これからもグループホームを理解していただけるよう、継続していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修の機会を設け、成年後見制度について学ぶ機会を持つようにしている。	○	今後も継続していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	職員を対象にした施設内研修を実施している。	○	今後も研修の機会を増やし、知識、意識を強化していく。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	入所希望見学。利用者やご家族の不安疑問点を、契約書、重要事項説明書を納得いくまで説明し、安心していただいている。	○	関係者の希望時間に合わせて、説明、同意を図る努力を行っている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情申出窓口を整備している。入居者、ご家族様からの日々の希望、意見等は、その都度検討し、意見を反映するよう努めている。	○	食事の味、量等は、希望のあった時点から改善を行った。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的にＧＨ通信を発行し、行事の案内をしている。家族の面会時などに日常の様子の報告をしている。	○	身体の特変時は急ぎに知らせている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族懇談会を行い、意見や希望などを伺っている。	○	意見に基づき、ミーティング等で全職員が把握し、記録に残し、活用できるよう努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を通じ、意見交換の場を設けており、お互い意見交換ができる環境を定期的に行っている。	○	今後も継続していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の外出、通院、行事の時間帯は人数配置を考え調整に努めている。	○	必要に応じ、マンツーマン対応も行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員との定期的面談を行い、精神、肉体面のフォローができる体制を作っている。職員を固定化し、担当入居者と関わりが継続している。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回施設内研修があり、極力参加している。施設外研修にも参加し、レベルアップを目指した体制をとっている。	○	今後も継続していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区のグループホーム連絡会で年1～2回の研修を兼ねて、他の施設との交流を実施している。もう少し回数を増やし、意見交換の場を持てるよう努めたい。	○	今後も継続し、回数を増やせるよう努める。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	福祉厚生事業に加盟し、サービスが利用できる。	○	今後も継続していきたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得、また、研修等参加し、技術向上に努める。	○	今後も継続していきたい。
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	日々の状態を様子観察し、こまめな声かけに努めている。	○	今後も継続していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ホーム側に対しての疑問、質問、求めている事などを話しやすい関係作りに努め、ご家族の面会時等に心の思いを一つでも多く語って頂く様に心掛けている。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在ホームでできることを明確に説明している。また、他のサービス利用、情報も状況に合わせて紹介するようにしている。	○	今後も継続していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族とこまめに連絡を取り、不安を取り除き、より良い環境でサービスを開始していく。	○	生活に馴染んでいただける様に、本人の表情、行動等、また、家族や関係者からの情報をこまめに聞き入れ支援している。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に生活し、本人の自由を尊重しながら、家庭的な雰囲気を心掛けている。	○	経験豊富な入居者の知恵を頂いたり、異なる環境の生活を学ぶことも多くある。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の希望、日常の様子等、情報を密に交換している。	○	今後も継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事などのお誘いを行い、一緒に過ごしていただける機会が多くもてるように努力している。	○	今後も継続していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居以前の友人知人など来訪されている。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ゲーム等を通じ、コミュニケーションの場を作り支援をし、トラブルを防ぐ為、職員間の情報の共有に努めている。行事、レクに誘い、関わり合いをもてるようにしている。	○	利用者自身がお互いに理解し、支援できるようにしたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要に応じ、支援を継続していくよう意識している。	○	今後も継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いを把握し、サポーターが協力して、外出や散歩などを提供している。	○	今後も継続していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人とのコミュニケーションの中から得た情報や家族からの情報を基に、以前とあまり変わらない生活が送れるよう努めている。	○	入居前に使っていた家具、衣類などの使用で家庭生活の延長ラインになるよう、環境作りを支援している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ゲームや散歩、会話の中から状態の把握に努めている。（個別対応も行っている。）	○	個々の好きなことを優先できるように努める。 （散歩、新聞・チラシ、歌番組を見る等）
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を用い、ケアプランに沿って家族や医師などの協力のもと、スタッフが話し合いをし、意見を出し合って介護計画を作成している。	○	事前に担当が現状を把握し、アセスメントを行う。情報を多く集めることに努める。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	特変があった場合、ケアプラン見直し作成している。	○	今後も継続していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人日誌や記録物を基に、変化が見られたらケース会議やカンファレンスを行い、見直し検討している。	○	個人日誌、日誌から日常の変化、要望を把握し、本人のケアプランに役立てている。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームの多機能性を活かしていきたい。 同一敷地内の施設の活用	○	今後も継続していきたい。 ショートステイ等のサービスの実施を視野に入れ、今後検討していきたい。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議等に参加して頂けるように、地域資源との協働に努めていきたい。	○	会議の主旨を地域の方に理解していただき、連携をもてるよう、今後も努力していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	常に意識を持ち関わっている。	○	社会資源を多く活用できるよう常に意識を持ち努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	常に意識を持ち、必要な時は関わりをもっている。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時、本人や家族と相談し、同意の下で受診している。家族希望の病院への受診をしている。	○	特変があった場合等は、本人、ご家族の希望される病院を受診できるよう支援している。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期受診を継続し、事前に医師に状態説明を行っている。	○	定期的に精神科医の往診があり、希望や状態に応じ受診、相談している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常に協力病院内看護職員又は医師に、受診すべきか等迷った場合には相談でき、助言等受け支援している。	○	常に変調時には連絡ができ、相談が可能な体制になっている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	そのような場合は、関係者、家族、病院との連絡を密にするよう心掛けている。	○	早期退院の場合、リハビリ通院支援を実施している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人や家族と話し合いをし、意に沿うよう協力をしている。	○	医療機関や家族との連携が必要なのでしっかりと連携を計っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向を踏まえ、医療機関とも連携を密に取れるよう努める。	○	医療機関との密なる連携が必要となるため、今後も連携を図っていきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	その方のグループホームでの生活リズムや特徴等、書面を使い、新しい環境のダメージを少しでも軽減できるよう、関係者同士で話し合っている。	○	今後も継続していきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	他者の前でプライベート、プライバシーを損ねる内容の話題にならないよう声掛けている。	○	個室への訪問時はドアノック、掃除等での入室前には本人へ説明、許可をいただき行っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個別対応等にて、時間をかけ対応している。	○	本人の要望、希望はなるべく取り入れ、自発的になれるよう支援している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	安心して安らかな日々を何ものにも束縛されることなく過ごしていただけるように支援している。	○	外出時には、マンツーマン対応を実施し、疲労時に備え、車椅子を持参することもある。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月2回理容訪問、月1回リハビリエステがあり、本人、家族の希望に合わせ利用している。	○	更衣の際など、本人に確認、選んでいただき、本人の好みに沿うよう支援をしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	生活の中で役割分担をし、楽しみながら一緒に行うようにしている。	○	ＡＤＬ維持向上のため、ほぼ毎日共同作業に参加されている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好みのおやつを提供している。	○	ご家族の希望、本人の望み等は常に大切に対応するよう努めている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の排尿、排便パターンを把握し、自尊心を傷つけないよう心配りをしている。	○	入居者が発するシグナルを見極め、促し、声かけを実行している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の希望をご本人にお聞きし、声かけをしながらリラックスして入浴していただけるよう心がける。入浴時、更衣の際にプライバシーの保護に配慮している。	○	温度調整の一つに暖房、扇風機の活用を実行している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の希望や体調に合わせて声かけをし、休んでいただいている。馴染みの寝具を使用していただいている方もいる。	○	臥床する時間の把握により、声かけを行い、本人の希望に合わせ休息を取っていただいている。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味、特技を活用できるよう、声かけし促しをしている。外出希望があると気晴らしにその都度行っている。（散歩等）	○	母体施設の喫茶や移動販売を利用していただいている。畑の手入れ、収穫、洗濯物等、職員と共に日常のリハビリを本人の意思で参加していただいている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出ショッピングの際に、本人に会計していただいている方もいる。（財布にお金所持、自ら管理）	○	外出、ショッピングの際、職員と共に代金を本人に用意してもらい払い、社会性が失われないよう気を配る。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や本人の体調に合わせ、外気浴やショッピング等希望にそうように努めている。	○	少人数で会話を楽しんでいただきながら、外食、喫茶店でおやつ等を頂く等、年に数回実施している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	イベントの参加、施設見学を行っている。	○	週一回、ショッピングに行っている。月に1～2回外出（公園、さとらんど、白い恋人パーク等）少人数で行っている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	対応しているが、今の入居者様で訴える方はいない。	○	必要時（訴え時）には対応していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できている。（日中のみ）	○	今後も継続していきたい。
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束について全職員は理解しており、全てにおいて拘束はしていない。また、サイトフェンスについては本人、家族と十分に話し合い、最小限の使用をしている。	○	身体状態に合った寝具や家具を使用していただいている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、夜間とも鍵をかけていない。	○	ユニット出入口には鍵がかけられないようになっている。玄関は夜間のみ鍵使用している。（防犯のため）

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	定期的に巡回、見守りしている。	○	会話（コミュニケーション）も兼ねて、利用者の状態を把握できるよう巡回している。思いを上手く伝えられない方は手の届く所に鈴等を置いている。
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者のＡＤＬに合わせ、ハサミ、針の使用やゴミ箱の設置等に気を配っている。	○	見守りの中にて、個々の能力に合った品物は使用していただいている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	社内マニュアルを作成し、職員一人一人が内容を把握し、実施している。	○	安全対策委員会で事例を討議し、意見交換の中から適切な対応ができるよう努めた。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	社内マニュアルや研修を行い、職員個々が対応できるようにしている。	○	応急手当時の対応を年数回研修で受けている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	訓練を定期的に行い、緊急時の対応を身につける。	○	近隣の方の協力を得られるよう、運営推進会議等で呼びかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	各セクションで定期的にケース会議を開き、職員皆で話し合い、適切な対応が出来る様にしている。	○	面会時やお電話にて近況や身体状態等をお話しし、お知らせしている。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日定時にバイタルチェックを行い、記録に残し、体調の変化に気を配り、情報を共有し対応している。	○	身体の変化を見逃さないために色別ケースの早めの検討、カンファレンス等も活用している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の受診ノートを活用し、服薬内容を把握している。	○	個々の身体能力に合わせ、錠剤では飲み込みが難しい方には、粉末にして提供してる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分量の記録と散歩などの促しを行い、自然排便を心掛けている。	○	食品、水分とのバランスを考えることを日々実行し、乳製品をベースとしたおやつも心掛けている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎日夕食後に義歯洗浄を行っている。（食後の口腔洗浄、促し、誘導、見守り）	○	夜間毎日洗浄剤を使用し、義歯の除菌を行っている。歯科受診が必要な方がいたら連絡し、往診していただいている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士よりカロリー計算された献立に沿って提供している。水分量は個人日誌に記録し、把握できるようになっている。栄養保持のため、エンジョイゼリーを提供している。	○	水分、飲み込み、困難、不可の方には、茶ゼリーにて対応している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	予防接種の実施や、うがい、手洗いをこまめに行い、予防に努めている。	○	手指消毒剤を共用部に設置している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、調理用具と布巾の消毒を行っている。	○	テーブル、布巾、まな板は毎日消毒を行っている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
（1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	出入口にはスロープと手すり、階段を設け、状態に合わせて使い分けが出来る様に配慮した。	○	出入口にベンチや草花を配置し、開放的でやわらかいイメージになるよう努力した。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	掲示物（生花、造花）等、季節感を感じていただけるように装飾している。	○	月々のカレンダー作り、メニュー表作りを入居者と共に実施している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングには1人用～3人用のソファーを配置している。	○	いつでも誰でも落ち着いて安らげる空間の場を提供している。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人や家族と相談し、使い慣れた家具を好みにより利用していただいている。	○	使い慣れた日用品を使うことにより、以前同様の生活環境に近づけられ、過ごし易く生活できるよう努めた。
84	○換気･空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計、湿度計を設置し、必要に応じて加湿器や濡れたタオルなどを利用したり、扇風機やクーラーにて対応した。	○	冬は乾燥防止のため、バスタオルを濡らし、居室、リビングに掛け、定期的に空気の入れ替えを行っている。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリヤフリーなので、段差なく、安全に移動ができる。	○	トイレの広さを車椅子や歩行器使用の方でもゆとりを持って利用できるよう、自力で

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	リビングのカレンダーにはその日が理解できるように、日めくりと日にちがわかるよう矢印で工夫している。	○	個人のタンスにシールを貼り、どこに入っているか分かるように工夫している。カップ等もシール、色分けし区別できる
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇に花や野菜を植え、一緒に手入れをしながら楽しみながら行っている	○	体調に合わせて、中庭に散歩に行き、テーブル、ベンチを活用している。年1回や外食を実施している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
等を自由記載）

・10月医療連携体制を整備し、隣接の協力機関・特養看護師と連携し24時間体制で、医療・健康面で細やかな対応を行っている。
・隣接している母体施設特養の設備（喫茶・機能訓練スペース）の使用や実施している活動（移動売店・各地域幼稚園・小中学校との交流会など）に参加することができる。また、特養・デイサービスと連携を持ち、クラブ活動（フラワーアレンジメント、手芸）、合同行事（盆踊り、敬老会、もちつき等）、合同バスレクにも一緒に参加し普段と違う雰囲気、人々との出会い・交流ができる機会も作っている。

・週に一度のショッピング゜の他、外出、外食へ少人数で出かけている。また、個別対応で公共の乗り物（地下鉄等）の乗り継ぎを体験していただき、社会環境の変化を感じる機会を作っている。